

1 はじめに

本校は、教育目標に「夢の実現に向けて 生き生きと学び、高め合う成沢っ子の育成」を掲げ、「チーム」そして「オール」で学校づくりを目指している。これを踏まえて、子どもの自律と社会の一員としての自覚を促す指導を充実させ、児童による自治的活動を位置付けた活動を実践している。

2 実践内容

(1) なるさわ大皆遊

本校では、6年生と1年生、5年生と2年生、4年生と3年生で兄弟学級をつくり、月1回程度なるさわタイム（ロング昼休み）の時間に一緒に遊んでいる。遊ぶ内容は、上の学年が中心となって考え、上級生が下級生と一緒に遊んでも安全にできるものを計画している。兄弟学級で交流することにより、上の学年も下の学年の児童も相手意識をもって活動することができた。



(2) あいさつ強化週間企画・運営

あいさつを強化したいと、運営委員会児童が強化週間を企画した。運営委員会の児童だけでなく、5・6年生の児童にも担当してもらいあいさつ運動を盛り上げた。あいさつを返すだけが目的ではなく、あいさつが上手にできた児童には、運営委員会児童から、「あいさつ名人カード」が渡された。さらには、「あいさつが上手にできるようになりたい」と掲げる児童も多く、礼儀としてのあいさつを意識付けることができた。



(3) 胸章ハンカチ調べ企画・運営

胸章着用率や少ないことや、ハンカチを持っていない児童が多いことから、成沢小学校全校児童が胸章を付けてくることができるよう、毎週月・金の朝の時間に運営委員会児童が中心となって胸章ハンカチ調べを企画した。着用率が上がらないときには、ポスターを作って各教室を回り、胸章を付けてくことやハンカチを持ってくるよう呼びかけた。また、胸章ハンカチ調べの結果を給食の時間に放送することで、全校児童の意識を高めた。



3 成果と課題

- 全校児童が集会や体験活動に参加し、人と人とがつながって生き生きと活動する楽しさを実感している姿が見られた。
- 運営委員会児童が学校の中心となって話し合い活動を進めることを通して、学校全体が同じ目標に向かって行事に参加する姿が見られた。
- 高学年の学級で話し合ったことを委員会の場に持ち寄るなど、様々な意見を認め合い、調整しながら意見をまとめることができるようになった。
- 高学年においては、委員会活動や学級会で話し合いをすることで、普段リーダーシップを発揮できない児童も「下級生のためなら」と目的を明確にし、積極的に話し合い活動に参加していた。また、下学年との関わりを通して、言葉遣いや態度など、多様な場面で一人一人が力を発揮している様子も見られた。
- 下学年は学校の中心となって行事を企画・運営する高学年へ憧れを抱いたり、高学年は低学年の個性を認め合って一緒に活動を楽しんだり、互いに尊重し合う態度を育成することができた。
- 自己肯定感や自己有用感を高めるために、互いのよさや努力を認め合う場面が増えた。しかし、WEBQU等を見ると、自己肯定感や自己有用感が低い児童が見られるので、児童一人一人のよさや可能性などを積極的に認める評価の工夫が必要である。
- 限られた活動時間の中で、さらに集団生活を活性化させるための方策について、検討していく必要がある。